

はじめに

地域暮らし活性化計画の位置づけ

- 令和2年4月のJA晴れの国岡山の発足にあたり、農業者の農業所得の安定・向上、農業生産の拡大のほか、JAグループの強みである「食」と「農」を柱に「文化」「健康」「福祉」も含めた取り組み、すなわち、「JAくらしの活動」の実践による地域活性化の実現に向け、地域暮らし活性化計画（以下、「くらし活性化計画」という）を策定します。
- JA晴れの国岡山「くらし活性化計画」は、人口減少・超高齢社会が進み、集落機能の低下や地域経済の停滞等により、地域の活力が失われつつある中で、JAが「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、農業振興とともに地域の活性化に貢献していくための道しるべです。
- JAの役割として、組合員・地域住民の多様なニーズに対応し、組合員・地域住民への理解促進により、JAファンを拡大し、“元気の輪”を広げていく「JAくらしの活動」を、事業部門間の連携はもちろん、県行政等関係機関・団体とも連携し、着実に実践します。

対象期間

令和2年から令和4年までの3ヵ年とします。

合併初年度（令和2年）を計画実施の初年度として、10年後（令和11年）のめざすべき姿（ビジョン）に近づくため、当面3ヵ年についての計画を着実に実践します。

但し、今後の情勢変化に応じ、具体策の追加等、適宜計画の見直しを行います。

地域暮らし活性化計画の進捗状況の検証

1年のサイクルで、対策の実施状況・成果の達成状況等について点検、見直しを行います。

令和元年6月

8JA合併推進協議会

1 地域活性化ビジョン(10年後のめざす姿)

JA晴れの国岡山のめざす姿(ビジョン)の一つに、「豊かで暮らしやすい元気な地域社会の実現に貢献し続ける姿」があります。

支店や地域営農経済センターを、地域の多様なニーズを有する組合員や地域住民が、「生きがい」、「つながり」を共感できる場と位置づけ、組合員や地域住民の参加・参画のもと、JAの各種事業と「JAくらしの活動」を連動させ、組合員・地域住民みんなが元気の輪に包まれる、そのような社会の実現をめざします。

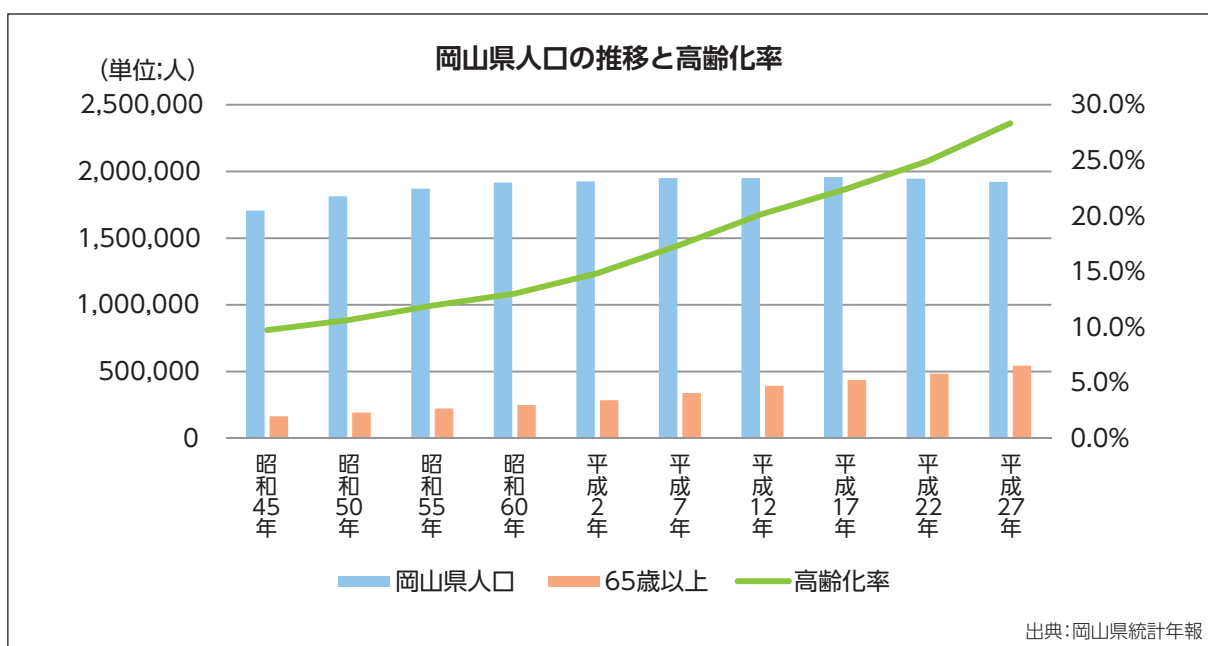
2 現状と課題

(1) 現状

岡山県人口の推移と高齢化率の推移

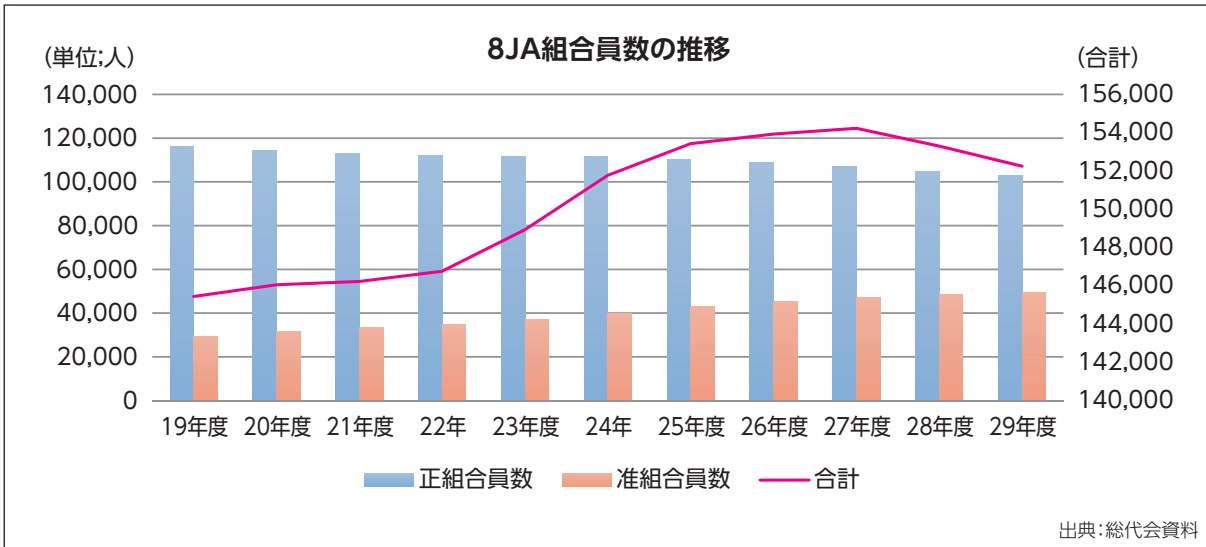
わが国では、少子高齢化の急速な進展による人口減少が、地域経済、産業さらには社会生活に大きな影響を及ぼすと危惧されています。本県では下図のとおり、平成17年ごろピークに減少しているものの、県内人口はほぼ横ばいの状況にあります。

但し、本県における高齢化率は急速なスピードで進行しており、平成27年10月時点では28.3%、約3人に1人弱が65歳以上の高齢者となっており、いわゆる超高齢社会に突入しています。



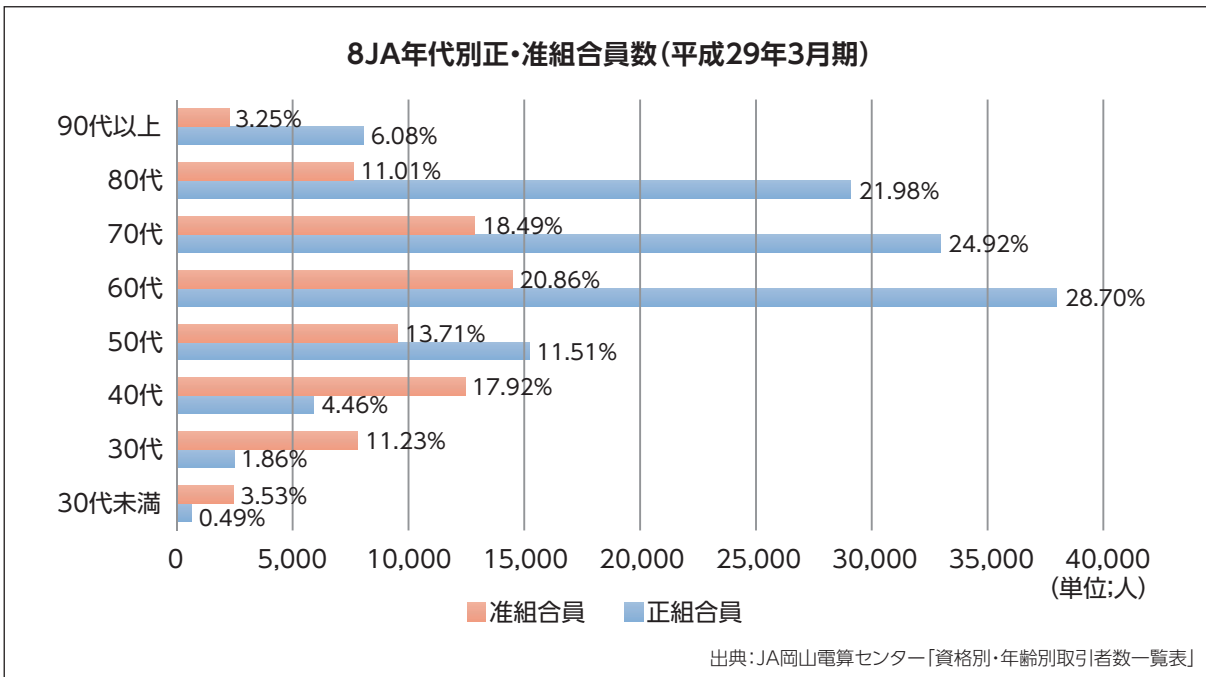
8JA組合員数の推移(県内の組織基盤)

下図のとおり、正組合員数については減少傾向、准組合員については増加傾向にあります。今後もこの傾向が続くと考えられます。



8JA年代別正・准組合員数

平成28年度末における年代別の正・准組合員数では、下図のとおり、60歳以上の割合が正組合員で81%超、准組合員で、53%超と非常に高い割合となっています。

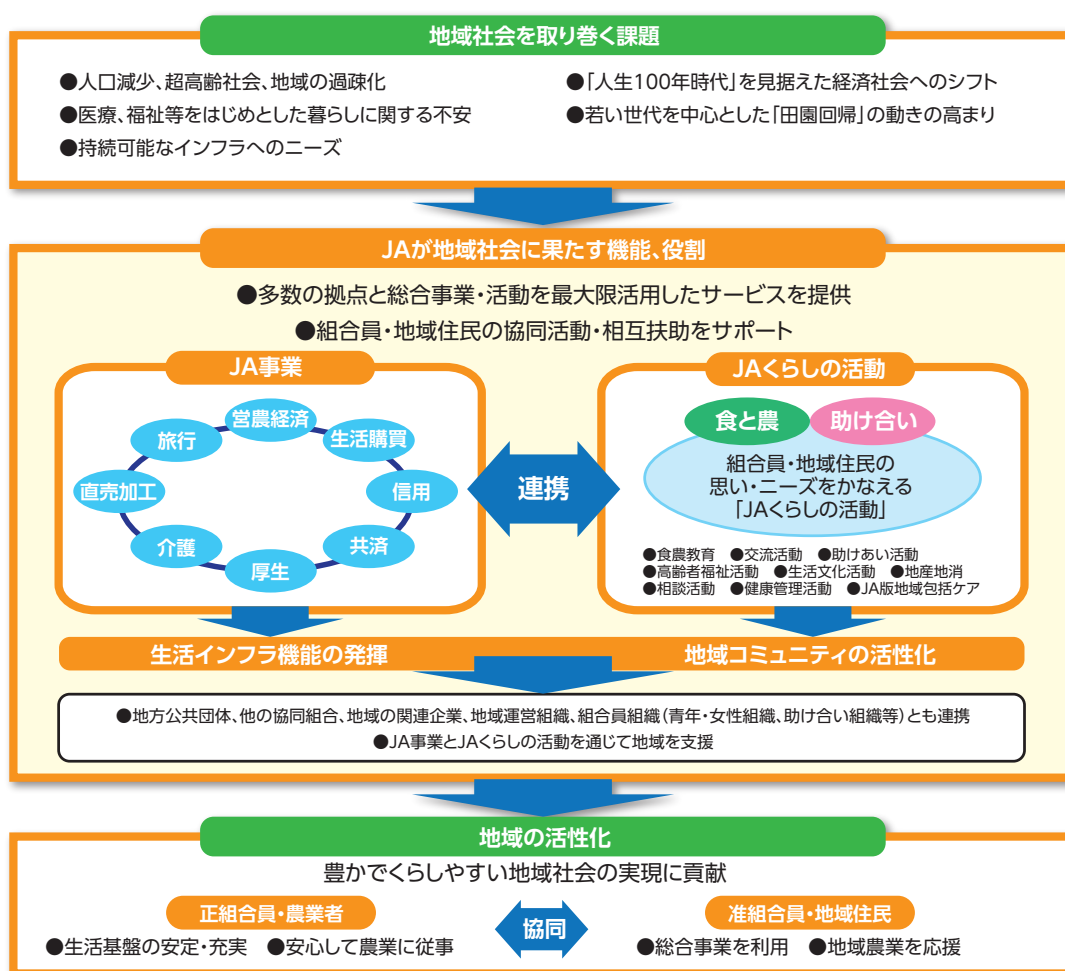


(2) 課題

現状からすると、正組合員数の減少・高齢化及び准組合員数の増加による組合員ニーズの多様化への対応、JAの広域化・支店(所)統廃合の進展によるJAと組合員とに生じた距離間をいかに縮めていくかが課題となります。課題解決に向けては、組合員のみならず、地域住民のニーズにあった事業・活動を展開することにより、組合員の利用満足度の向上やJAファンをつくり・増やしていく必要があります。

3 「JAくらしの活動」の定義・目的

JAくらしの活動は、支店や地域営農経済センターを拠点に、組合員・地域住民が日々のくらしの中で持っている思いやニーズに応えることにより、農業振興や地域の活性化をめざしていくものです。その目的は、取り組みを通じた組合員・地域住民の「生きがいづくり」、「つながりづくり」、「仲間づくり」、「絆づくり」等、地域社会への貢献的な要素に加え、JAファンづくり・農業の応援団づくりにあります。



(JA全中作成)

4

JA晴れの国岡山くらしの活動基本方針

JA晴れの国岡山は組合員・地域住民の「くらし」を守り、「食と農」を基軸とした事業や取り組みを通じて、組合員・利用者等、地域を元気にする活動を行います。

JAが実施する食農教育や生活文化活動、農協祭り等のイベント等については、統括本部が支店及び地域営農経済センターと連携し、継続的な活動として実施できるよう、本店によるサポートのもと体制強化を進めます。また、広域で一体となった活動に取り組み、地域におけるネットワークの構築、次世代も含めた幅広い利用者に対する協同活動等、その輪を広げます。

また、中山間地域のライフラインの一翼を担い、県行政等関係機関・団体と連携して、組合員の利便性の向上に努めます。さらに、地域を「協同の力」で支えるため、本店に担当部署を設置し、統括本部及び支店・地域営農経済センター並びにJA女性組織との連携を重視した地域の拠点としての活動を展開します。

こうした考え方にに基づき、役職員に共通のスローガンを定めます。

共通 スローガン

JA役職員による認識の共有なくして、活動の活性化なし。

組合員と地域住民、JA役職員による一体となった活動なくして、地域の活性化なし。

JAのファンの拡大なくして、組織の活性化なし。

5

JA晴れの国岡山の重点取り組み事項

基本方針に基づき、次のとおり事業・活動に取り組みます。

(1)「農業協同組合」運動と農業に対する理解促進

広報誌や各種メディア、農協祭り等のイベントを通じて、JAの事業や「農業協同組合」の活動の魅力を積極的に情報発信し、JAファンづくりに取り組みます。また、農業の応援団づくりに取り組みます。

【具体的な取り組み】

- ① 広報誌や支店だより等の発行をはじめ、地方紙・テレビ(笑味ちゃん天気予報等)・JAホームページ等あらゆるメディアを活用した情報発信
- ② 農協祭り等イベントの開催・参加による情報発信
- ③ JA農産物直売所を拠点とした管内農畜産物等の情報発信及び消費者との交流 等

(2)多様なニーズに応じた「健康・生きがい・ふれあいづくり」

子どもを対象とした「バケツ稲づくり」や「あぐりスクール」等の食農教育活動、シニアを対象とした健康増進活動・生きがいづくり、女性を対象とした生活文化活動等、多様なニーズに応じた活動に取り組みます。

【具体的な取り組み】

- ① シニア対象:健康づくり料理教室、健康づくり体操教室、地域交流・生きがい教室 等
- ② 女性対象:JA女性大学、料理教室、子育て支援、加工品開発 等
- ③ 男性対象:男の料理教室、園芸講座 等
- ④ 子ども対象:バケツ稲づくり、あぐりスクール、親子料理教室、学童農園、小学生スポーツ大会への協賛 等
- ⑤ 地域住民対象:JA健康寿命100歳プロジェクト(ウォーキング、体操教室、健康教室)、生活習慣病改善、健康診断及び事後指導、巡回人間ドック健診、JA地域貢献活動(清掃・美化・交通安全運動)、農業塾 等

(3) 地域のライフラインを支える住みよい「生活環境づくり」

人口減少が進む中、特に中山間地域における組合員の「暮らし」を守るため、移動購買車の運営等のほか、出向く活動による見守り機能の発揮や助け合い活動に取り組みます。

【具体的な取り組み】

- ① 渉外担当者等の出向く体制の強化による地域見守り機能の発揮
- ② 行政等との連携による移動購買車の運営等
- ③ 女性組織・助け合い組織等と連携した助け合い活動（見守り・弁当宅配等）の実施
- ④ 暮らしの相談活動（税務・住宅・年金・相続等）の実施 等

(4) 女性組織（フレッシュミズ組織含む）等組合員組織の活性化支援

地域の活性化に必要不可欠な組織として、さらなる女性組織（フレッシュミズ組織含む）・青壮年組織の活動への加入促進を支援します。

【具体的な取り組み】

- ① 組合員大学や女性大学の開講
- ② フレッシュミズ部員の拡大及び取り組みの活性化に向けた支援
- ③ 女性の組合員加入と総代及び役員へのJA運営参画の促進（JA組織・経営等にかかる勉強会、意思反映の仕組みづくり）
- ④ 全統括本部での青壮年組織の設立と若手農業者の加入促進
- ⑤ 地元農畜産物を利用した6次産業化の取り組み促進 等

6

取り組みの進め方

(1) 役職員の「JAくらしの活動」の意義等の共有化・理解促進

「JAくらしの活動」に対する理解・意識の醸成を図るため、総務企画部門の主導による教育や研修会の開催等を通じ、役職員にその「目的・必要性」を醸成させるほか、事業部門横断的な取り組みを展開します。

(2) 組合員・地域住民への理解促進並びに行政等関係団体との連携

支店や地域営農経済センターでの活動対象者を明確にしたうえで、地域のニーズに即した活動を展開することにより、組合員・地域住民と信頼関係を構築し、協同組合の取り組み等について理解促進を図ることをめざします。

また、JAくらしの活動を面的に広げるため、拠点間の連携はもとより、組合員組織（生産者組織、青壮年組織・女性組織等）や行政・他の協同組合（生協、漁協、森林組合等）と、「食」と「農」を基軸とした組織間連携による取り組みを展開します。

行政や関係団体との連携した地域社会づくりへの貢献（イメージ）

連携内容	取り組み（例）
(1) 行政との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害、見守り等の協定締結 ・ 移動購買車の運営、子育て支援 等
(2) 商工会等他団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の販路開拓 ・ 6次産業化の商品開発 ・ 地域活性化に係る協議会への参画 ・ 消防団、自治会等への職員の参加
(3) 協同組合間の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生協等と連携した商品開発 ・ 他の協同組合の組合員との交流
(4) 子ども食堂等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食材の提供

(3)「JA晴れの国岡山くらしの活動基本方針」の実践に向けた 取り組み体制及び役割機能等

① 本店

「JA晴れの国岡山くらしの活動基本方針」に基づき活動に取り組みます。

ア. 担当部署の主な役割

- ▶「JAくらしの活動」の実施に関する方針の策定
- ▶「JAくらしの活動実施計画<単年度>」の策定
- ▶県行政等関係機関・団体への連携の働きかけ
- ▶統括本部の「JAくらしの活動」の取り組み支援
- ▶統括本部くらしの活動担当者の資質向上、相互連携・情報交換等を目的とした研修会等の開催
- ▶統括本部の「JAくらしの活動」実施状況の把握、情報提供
- ▶マスコミ対応、ホームページ等での情報発信
- ▶JA広報誌等を活用した活動計画・実施内容等の組合員への「見える化」の推進

イ. 推進担当部署

- 推進担当部署は、総務企画部署に置き、担当者を配置します。
- 推進担当部署は、組合員組織活動及び教育文化活動等の担当部署として、「JAくらしの活動」を推進します。

また、「JAくらしの活動」は、女性組織との連携が必要不可欠であることから、女性組織の運営等を担当する本店経済担当部署とも、連携をとりながら、取り組みを進めます。

さらに、「JAくらしの活動」は、組織基盤対策として、重要な取り組みであることから、積極的な活動が可能となる体制の検討を進めます。

そのため、各支店及び地域営農経済センターに担当者を配置し、支店・地域営農経済センター毎、あるいは両者が連携した取り組み等を進めるほか、各支店長及び地域営農経済センター長等を責任者として計画の策定及び進捗管理等を行います。

② 統括本部

組合員・地域住民のニーズ等は、地域によって異なるため、地域の実態に応じて取り組む必要があります。

地域におけるニーズの把握や現状の取り組みを検証し、統括本部単位での「くらしの活動計画（令和2年度～令和4年度）」を策定します。さらに単年度の計画を策定し、着実に実践します。

特に、令和元年度の計画策定にあたっては、現JA毎の取り組みとなるものの、新JA発足後の取り組みの準備段階として、実施体制の整備、予算の確保のほか、現JA間での連携も含めた取組内容等の検討も考慮します。

ア. 担当部署の役割

- ▶ 統括本部「JAくらしの活動計画」の策定・実施
- ▶ 支店・地域営農経済センターの取り組み支援（本店との連携）
- ▶ 統括本部内の活動実施状況の把握、本店への報告
- ▶ JA広報誌等に活動計画・実施内容等を掲載し、組合員・地域住民への「見える化」

イ. 担当部署

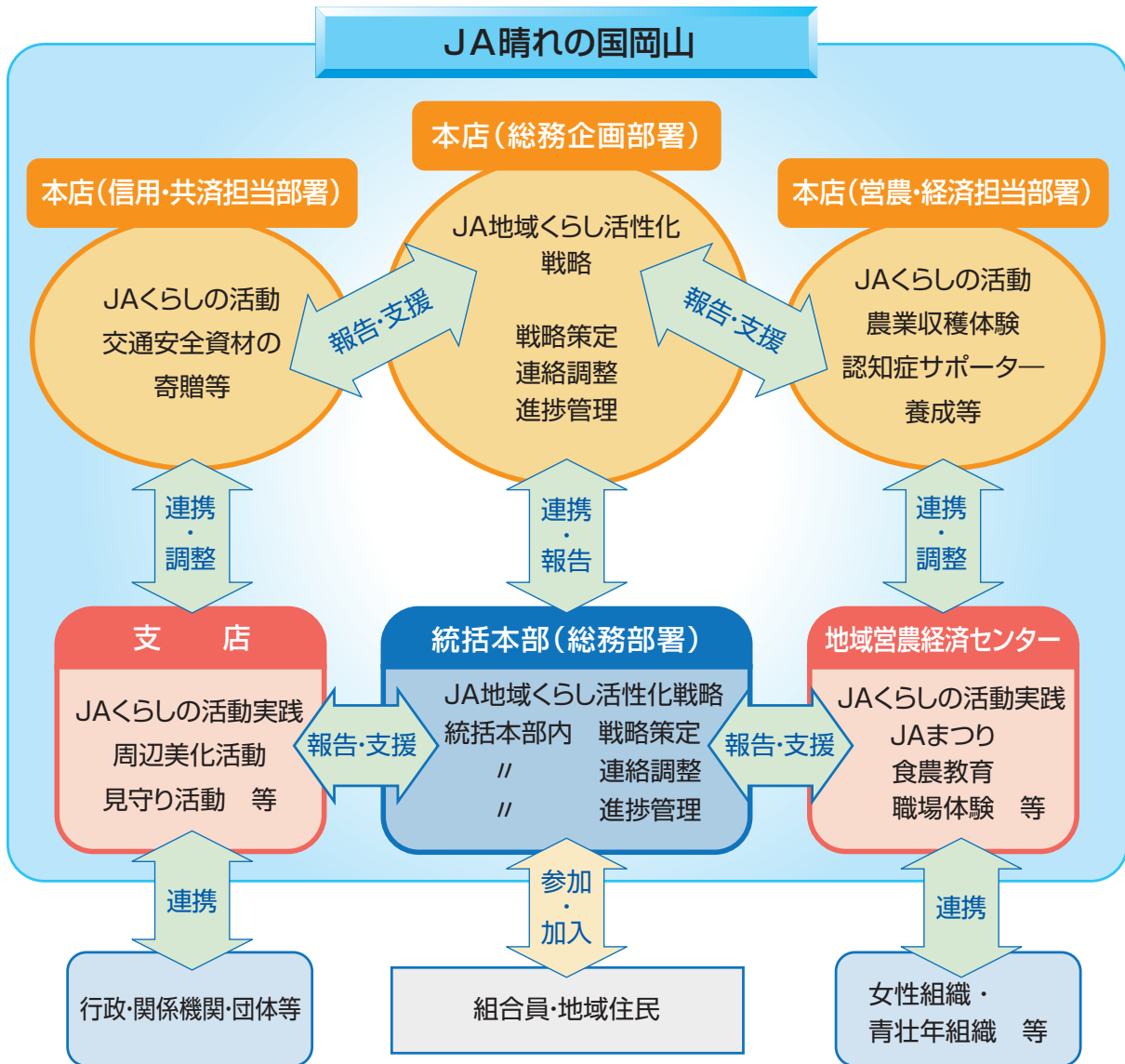
- 担当部署は、統括本部の総務部署に置き、担当者を配置します。

ウ. 支店・地域営農経済センターの役割

- 「支店だより（仮称）」等の発行による情報発信
- 統括本部・女性組織（フレッシュミズ組織含む）等の「JAくらしの活動」の実施への協力
⇒ 例えば、農業体験、料理教室等

エ. 統括本部担当部署と支店・地域営農経済センターとの連携

- 統括本部の「JAくらしの活動」の実施にあたっては、統括本部内の支店・地域営農経済センターが、身近な総合相談窓口となり、かつ地域の要となる拠点でなければならないことから、統括本部担当部署と支店・地域営農経済センターが連携して、活動を展開します。



(4) 予算

「JAくらしの活動」については、取り組みの効果が短期的に得にくいことを考慮し、計画策定上、現状をベースに、実績等に応じた予算計上を行います。

また、連合会等から助成措置が講じられている活動については、継続的な活用を図ります。

さらに、県・各市町村行政に対しては、地域住民のくらしを守る「地域づくり」に必要な要請等を行います。